



## 就任の御挨拶

この度、静岡県中小企業団体中央会会長に就任致しました。協同組合浜松技術工業団地の山内致雄と申します。平成14年に中央会理事に就任し、平成19年より副会長の任に就いてから現在に至るまでの18年間、静岡県の中小企業・小規模事業者の発展に邁進して参りました。

諏訪部前会長より引き継いだ襷には県内中小企業・小規模事業者の発展に寄与するという強い使命と歴代の諸先輩方の思いが深く刻まれているという実感がございます。この襷を新型コロナウイルスの影響が未だ強いこの時に受け継ぐことの意義と使命感を身に染みて感じている次第であります。

申し上げるまでもなく、昨年暮れに発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中で猛威を振るい、我が国におきましても、業界や規模の大小を問わず、すべての事業者に計り知れない大きな影響を及ぼし、今、まさにその渦中にあります。

とりわけ中小企業・小規模事業者におきましては、多くの事業者が、事業再興の目途も立たず、中には組織存亡の危機にある方もいらっしゃるなど、まさにリーマンショックをはるかに超える深刻な状況が続いております。

こうした状況の中、私共中央会と致しましても、今年度事業において、コロナ関連に対する支援を中心に据え、行政の各種施策が中小企業の皆様にも有効にご活用されますよう、積極的に支援させて頂きたいと考えております。加えまして、組合同士が助け合う「応援プロジェクト」も立ち上げ、まさに組合全員が協働してこの難局に立ち向かう所存でございます。

新型コロナウイルスにより大変厳しい状況が続いておりますが、このような時だからこそ、同じ志を持つ皆様、そして中央会役職員がこれまで以上に強く連帯していくことが重要であると考えます。また中央会会長として、コロナ不況脱出のサポートが第一であります、「経済環境に沿った新規事業への取り組み」や「施策実現能力のアップ」、「更なる財政基盤の強化」、「役職員の意識改革と定着」にも尽力していきたいと考えております。

このようなときに中央会会長に就任し、その責務の重さに身の引き締まる思いではありますが、私自身、中央会の役職員とともに一丸となってこの難局に立ち向かって参りたいと存じます。

結びに当たりまして、会員組合並びに関係各所の皆様には、倍旧のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、ますますのご隆盛をご祈念申し上げます、会長就任のご挨拶と致します。

令和2年6月24日

静岡県中小企業団体中央会

会長 山内致雄



## 退任の御挨拶

静岡県中小企業団体中央会  
第5代会長 諏訪部敏之

平成26年に中央会会長を拝命して以来6年が経過し、この度退任のはこびとなりました。

この6年を振り返りますと激しく動く世界経済とグローバル化、ITやAIなどの急速な進化、人手不足、事業承継、働き方改革など中小企業をめぐる経営環境は一段と厳しくなつたと感じます。それに加えて新型コロナが、我々の経営に及ぼす影響に一抹の不安を覚えます。

その中で、国、県、地方自治体が、我々に対しまして手厚い支援策を講じておられることや、この程、経団連がコロナ禍への対応とサプライチェーン強化を図るために、下請け企業との取引適正化を進める「パートナーシップ構築宣言」事業を始められたことなど、暗闇の中で行く先を模索する我々に一つの灯りを灯して下さいました。また、過日、安倍首相がコロナ対応政策の発表の際に「日本経済の屋台骨を背負っている中小企業」と言われましたが、今迄、どなたからも聞かれなかった言葉だけに、ようやく我々の存在価値が認知されるようになったと大きな励みと感じております。行政、そして経団連の皆様には、コロナ終息後も継続して中小企業をご支援戴きたいと存じます。

さて、ここで退任に当たりまして私見を述べさせて戴きます。現在、各企業では、コロナ禍に対応するべくテレワークによる在宅勤務やオンライン会議など働き方の改革を進めておりますが、今後、それらが時代の進化に適応した改革として定着することが望まれます。しかし、その一方、私がオンライン会議に参加して感じましたのは、情報伝達だけなら良いが、何かを決める会議の場合、参加者が一堂に会することなくして意思の疎通が十分に図れるだろうかという疑問です。それと同時に、心の繋がりが希薄になるのではないかとの懸念も生じました。昭和時代の人を思いやる心の温かさが平成の30年間で薄れておりますが、日本の企業経営に於いては、心の繋がりは欠かせぬものと思いますので、それを念頭に置いた改革の必要性を痛感致します。

大分前に台湾出身の金美麗氏が次のようなことを話しておりました。

「台湾人は今まで日本人を師と仰ぎ、日本人が世界に誇る宝である真面目さ、勤勉さ、公共心、温かい心、家族愛を学んできた。しかし、最近の日本人は、その宝を無くそうとしている。本当に勿体ない。」

我々は、この言葉を貴重な警鐘として受け止め、コロナを契機に日本人の宝をもう一度思い起こし、取り戻すことが日本の繁栄に繋がるものと確信致します。今後、中央会の事業を進めるに際し、皆様には、日本の宝を根底に置かれることを是非お願いしたいと思っております。

中央会の令和2年度事業が、これから始まりますが、静岡県中央会の会員組合870組合と企業5万社の皆様と中央会が一体となって、会員の皆様のご繁栄に繋がる事業推進が出来ますことを、山内新会長と役職員の努力に期待する次第です。

結びに当たりまして、皆様のご期待に添える責務を十分に果たし得なかったことを反省すると共に、皆様から戴きましたご厚意、ご支援に心より感謝申し上げ退任のご挨拶と致します。